

文書管理システム要求仕様書

XXXX年X月X日

〇〇〇〇〇〇株式会社

導入の目的

従来、〇〇〇〇〇〇において情報は各個人が保管し、各自の判断で紙ベースあるいはメールによる共有を図ってきた。その為、場合によってはそれらの情報を紛失したり、改訂版が連発されると最新のものが判らなくなるといった、信頼性の低下という事態が発生していた。また、状況によっては一つの情報が必要な範囲に行き渡るのに長い期間を要したり、或いは必要な範囲に行き渡らない、期限内に必要な周知がなされないというケースも見られた。

また、情報共有の仕組みがシステム化されていないため、発信元から届いた情報を別の部署の担当者が改めてシステムに向かって入力する等、会社全体の状況を見たときには同じような作業を複数の部署で繰り返し行なわれ、非常に効率の悪い状況になっていることが明らかになった。

これらの現状を打破するために、以下の様な目的を持って本システムを導入することにした。

1. 社内に分散している情報を一元管理することにより、容易かつ確実に情報共有を行えるようにする。
2. 情報の発信元が責任をもって配信することにより、複数の部署で同じ業務の繰り返しになっている現状を改善し業務の効率化を図る。
3. 紙ベースになっている上位者による承認のルートをシステム化し、確実性・迅速性を向上させる。

仕様の範囲

本仕様の範囲は以下の通りとする。(別紙「システム概要」参照)

1. 文書管理システム (ストレージ含む)
2. 統合ユーザー管理・認証システム
3. イン트라ネットシステム (社内ポータルサイトとしての画面制作を含む)
4. アーカイブシステム (大容量ストレージ含む)

以上の各システムの構築とシステム間連携、他システムとの接続までが範囲となる。

また、以降の内容に関しては個々のシステムに分けての記述はしていない。御提案・御見積にはシステム毎に機能の範囲を明記して頂く必要がある。

なお、4. 番のアーカイブシステムに関する仕様は現段階では将来検討項目となっているが、御提案・御見積を頂く際には将来拡張部分として配慮が必要な項目となっている。

導入スケジュール

本システムの導入は以下のようなスケジュールで行う。

第一期導入 イン트라ネットシステムの導入、文書管理システムの既存機能移行
統合ユーザー管理・認証システムの導入

XXXX 年 X 月中旬 イン트라ネットシステム、統合ユーザー管理・認証システムの
試験運用開始

XXXX 年 X 月 X 日 本運用開始

XXXX 年 X 月中旬 文書管理システムの試験運用開始

XXXX 年 X 月 X 日 本運用開始

第二期導入 イン트라ネットシステム、文書管理システムの機能拡張

XXXX 年度前半 ワークフロー機能・他システムとの接続機能の追加・本運用開始
ストレージ容量アップ

第三期導入 アーカイブシステム（本仕様で将来検討項目となっている部分）

XXXX 年度後半 本運用開始予定

作業範囲

ラック本体は既に設置済みであるので、ラック設置以外の全ての作業が範囲となる。ラック外への接続としては以下の作業が今回の範囲となる。

1. 指定の分電盤からラックまでの電源ケーブル布線
2. 指定の接続点からラックまでのネットワークケーブル布線（弊社指定業者を使うことが望ましい）
3. キーボード・マウス・ディスプレイを用意しない場合は、指定の KVM スイッチまでの接続キットの用意と接続ケーブルの布線（仕様に関しては別途指定）

ハードウェア的要件

ハードウェア的仕様は以下の要件を満たすことが必要である。

1. 将来の拡張性を考慮したうえで、42U のラック 2 本に将来拡張分も含めて全て収容可能であること。ラックは△△△製 XXXX-XXX である。
2. 床耐荷重の関係から、ラック重量を除いた機器重量は将来拡張分も含めた合計で 350～400kg に収めること。
3. 電源は CVCF 等で保護された系統ではないため、不測の停電に備えた構成にすること。
4. 指定の接続点までのネットワークは耐障害性を高めるため冗長構成とすること。
5. システム内のネットワークも可能な限り耐障害性を高めた構成とすること。
6. ハードウェア機器は耐障害性を高めた構成であること。
7. 導入当初のストレージ容量は以下のように想定している。
 - ・ 社員 4GB/人 200 名 合計容量：800GB
 - ・ 非社員 1GB/人 200 名 合計容量：200GB
8. ストレージはユーザー単位・グループ単位で容量の制限を設定できること。容量制限の管理は統合ユーザー管理・認証システムで出来ることが望ましい。
9. ストレージは将来の人員増加、或いはコンテンツサイズ増大に備えて拡張性を有すること。
10. 障害発生時の復旧を迅速に行うことが可能なバックアップの仕組みを備えること。
11. システム全体として可能な限りダウンタイムを少なくするような構成とすること。

ソフトウェア的要件

現行運用している文書管理システムとイントラシステムは以下のような機能を持っている。本仕様書はこれらのシステムの更新に関する仕様という位置付けなので、現行システムが持っている特徴的な機能は維持する必要がある。

1. 現行イントラシステム (別紙「現行 イントラシステム概要」参照)
 - ・ 分散する各システムへのポータル機能
 - ・ 指定部署へ公開することが出来る掲示板機能
 - ・ スケジュール管理機能、住所録機能といったグループウェア的機能
 - ・ 会議室予約機能
2. 現行文書管理システム (別紙「現行 文書管理システム概要」参照)
 - ・ 文書の暗号化保存・管理機能
 - ・ 文書の登録履歴管理機能
 - ・ 文書の指定部署・個人への公開機能
 - ・ 個人情報保護・管理機能
 - ・ 視聴者への問い合わせに対する回答の公開・管理機能
 - ・ システム的に作成される定型メールに基づくデータファイル生成・管理機能

これとは別に、以降の運用想定概要に記載されている要件を満たす必要がある。

なお、各機能の画面遷移や個々の画面の動作に関しては、管理するデータ量の増加が操作のレスポンスに影響を与えず、いかなる場合も高速に動作することが必要である。

システムを構成するアプリケーション、及び開発言語、データベース等に関しては特別な指定はないが、オペレーティングシステムに関しては可能な限り Microsoft 社の Windows 系 OS は避けること。

ユーザーに提示される各画面は W3Cⁱの TechnicalReports に則った HTML4.01 又は XHTML1.0 及び CSS1、CSS2 を用いて構成され、端末側 OS 及びブラウザに依存することのない形で提供されること。また、それら画面は弊社作業としてカスタマイズ可能な形であることが望ましい。

統合ユーザー管理・認証システムは将来的に他システムの認証にも使うので汎用的な技術を用いた仕組みで構築すること。

運用想定概要

各ユーザーはブラウザを立ち上げたときに出るポータルサイトのログイン画面に向かって、ユーザー名とパスワードを入力を行う。入力されたユーザー名とパスワードを元に統合ユーザー管理・認証システムにて認証を行ない、そこで事前に設定されている情報を元にユーザー用の画面を展開する。同時にアクセス可能な範囲と権限の情報も取得される。

以下ではポータルサイトとして一般的な各機能の運用想定に関しては特に明記しない。文書管理の手順に関してのみ記載する。

各ユーザーが個人の情報として文書のアップロードを行う。このときに文書の概要などメタ情報と、必要に応じて公開条件やフォーマット変換の指定を行う。アップロードされた文書はメタ情報などと共に登録履歴の管理が行われる。メタ情報、公開条件やフォーマット変換の指定に関しては登録後も変更可能であり、それらの情報についても履歴の管理が行われる。公開条件が指定された文書に関しては、その条件に基づいてセキュリティが確保された状態で公開される。他システムへのデータの転送が必要な文書の場合は、指定されたインタフェース条件に基づき適切なシステムへ転送され、転送された先で公開処理が行われる。

(別紙の各種ワークフロー参照)

これとは別に、各ユーザーが入力フォームに向かって情報を入力する場合もある。ここで入力された情報に関しては指定された条件でデータ項目と記載内容のチェックを行い、事前に指定されたフローに基づき承認処理をされた上で、他システムに指定されたデータフォーマットでインタフェースされる。他システムへ渡した内容に関しては一定期間、文書管理システムにおいて保存され閲覧・修正が可能な形態になっていることが必要である。

入力フォームとデータ項目に関しては弊社作業として追加・修正・削除などが可能であること。

(別紙の各種ワークフロー参照)

登録された文書に関してはメタデータを利用したキーワード検索の他、文書そのものの全文検索を行ない必要な文書の閲覧を行う。閲覧者の権限によって最新の文書のみが検索・閲覧可能な状態になるのか、履歴として保存されている文書も含めて検索・閲覧可能な状態になるのかが決まる。なお、登録者本人は自らが登録した文書全てが検索・閲覧・更新可能な状態となる。また、承認フローに乗った情報に関しては、各ユーザーが自分用の画面に於いて承認状況ステータスの確認を行う。

なお、他者への公開を指定した文書に関して公開条件に閲覧状況確認「要」の指定があるものについては、閲覧者が対象文書を確認に閲覧したという印を手動で付ける。文書登録者は閲覧状況確認画面にて対象者が確認に閲覧したかどうかの確認をする。登録者は任意の時期までに閲覧をしなかった者に対しては、閲覧を促すよう告知を行う場合もある。

メタ情報

登録されるメタ情報としては以下のようなものが想定される。

- ・ 文書登録者、登録日時、文書形式などシステムの自動で付加される情報
- ・ 文書概要、キーワードなど登録者が適宜付加する情報

メタ情報項目に関してはシステム管理機能で設定可能とする。メタ情報項目が追加された場合にも既存の文書に関するメタ情報には影響を与えないこと。また、メタ情報項目が削除された場合には編集・検索・閲覧対象から外すのみとし、既存の文書に関するメタ情報を削除するようなことはしないこと。

フォーマット変換

フォーマット変換で指定するフォーマットは以下のようなものが想定される。

入力フォーマット

- ・ テキスト形式
- ・ CSV 形式
- ・ Microsoft Word 形式
- ・ Microsoft Excel 形式
- ・ Microsoft PowerPoint 形式
- ・ ジャストシステム 一太郎形式
- ・ ジャストシステム 三四郎形式
- ・ Adobe PhotoShop 形式
- ・ Adobe Illustrator 形式
- ・ JPEG 形式
- ・ PNG 形式
- ・ GIF 形式
- ・ BMP 形式

出力フォーマット

- ・ テキスト形式
- ・ CSV 形式
- ・ HTML 形式 (XHTML 形式)
- ・ PDF 形式
- ・ JPEG 形式
- ・ PNG 形式
- ・ GIF 形式

なお、入力におけるテキスト形式に関してはファイルアップロードによるものの他に、テンプレート入力的なものもある。

公開条件

指定する公開条件に関しては、以下のようなものが想定される。

- ・ 承認を必要とする・しない
- ・ 承認を必要とする場合の承認条件（承認者の指定や承認人数の指定、承認順位の指定）
- ・ 閲覧状況確認を必要とする・しない
- ・ 公開されるべき範囲の指定
範囲の指定は、ユーザー単位、部門単位、職位単位、グループ単位、もしくは複数単位を結合した複合的単位をもって行う。
- ・ 公開期間の指定（開始日時と終了日時）
開始日時の指定は、即時・今日（+時刻）・明日（+時刻）・年月日（+時刻）
終了日時の指定は、今日（+時刻）・明日（+時刻）・開始日含むn日（+時刻）・年月日（+時刻）
のような指定の方法とし、時刻指定を省略した場合には開始時刻は 00:00 が、終了時刻は 23:59 が指定されたものとみなす。
- ・ 公開される文書のフォーマットの指定
指定されたフォーマットがない場合、もしくは、指定されたフォーマットが登録された文書と同一フォーマットの場合は変換動作を行わない。出力フォーマットに関しては複数指定が可能とする。

他システム

他システムとは現在のところ以下のようなものが想定されている。なお、他システムとのインタフェース条件に関しては別途システム毎に指定される。

- ・ ●●●●システム（コンテンツ集配信サーバー）
- ・ ○○○○システム
- ・ ××××システム

コード変換・内容チェック

ユーザーが入力した情報の種類によっては、入力された段階で指定された文字コード（ARIB STD-B24ⁱⁱ 第1編 第2部 第7章 7.1ⁱⁱⁱ及びARIB TR-B14^{iv} 第4編 第1部 4^vに記載の8単位文字符号）への変換を行い規格（ARIB TR-B14 第4編 第1部 4.5^{vi}に記載の最大文字列長）に基づいたチェックをかけ、ユーザーにチェック結果を速やかに返す必要がある。

また、外字（ARIB 外字^{vii}やラテ欄外字^{viii}）の入力サポート機能や変換機能、機種依存文字のチェック機能なども必要である。

ⁱⁱ 社団法人電波産業会発行の「デジタル放送におけるデータ放送符号化方式と伝送方式 標準規格 ARIB STD-B24」のこと
ⁱⁱⁱ 第7章は「文字符号化」、7.1は「8単位文字符号」について書かれている

^{iv} 社団法人電波産業会発行の「地上デジタルテレビジョン放送運用規定 技術資料 ARIB TR-B14」のこと

^v 第4編は「PSI/SI 運用規定」、第1部 4は「文字列の符号化」について書かれている
PSI/SIにおいてはARIB STD-B24から拡張されている部分があるので要注意

^{vi} 第1部 4.5は「文字列の最大長」について書かれている。

フィールド名や記述子に関する内容は社団法人電波産業会発行の「デジタル放送に使用する番組配列情報 標準規格 ARIB TR-B10」に記載されているので参照のこと

^{vii} ARIB TR-B14 第4編 第4部 付録Eに記載されている追加記号のこと

^{viii} 配信社との伝送で用いる外字のこと

これら文字コード関連のチェックの他に、辞書を用いた表現チェックのようなものを実装できるとなお良い。このチェック用辞書は追加・修正・削除などを行うためメンテナンス機能を必要とする。

管理機能想定概要

管理権限を持ったユーザーのみが使用可能なシステム管理機能と、各ユーザーが使用可能な個別管理機能の二つが想定される。

システム管理機能

ユーザー管理（部門管理、職位管理を含む）とグループ管理機能、システム内で管理されているコンテンツの管理機能、システム全体に及ぶ各種設定管理機能、ログ管理機能を有すること。

1. ユーザー管理機能

ユーザー管理機能はユーザー単位で各システム毎のアカウント名とパスワード、及び、所属部門と役職・職位、使用可能な画面と権限を管理できること。所属部門と役職・職位に関しては人事異動発令と赴任の時期のずれを考慮し新旧両方が同時に設定でき、内示日、発令日、赴任日の管理が出来ること。所属部門に関しては組織の形態を考慮し四階層程度の管理が出来ること。

2. グループ管理機能

プロジェクト的なもので利用する場合にユーザーに対して所属部門とは別に割当ててることを想定している。1ユーザーに対して複数グループの割当てが可能であること。

3. コンテンツ管理機能

所有者が不在となってしまったコンテンツの移動、削除、属性変更、所有者変更などを行うことが出来ること。管理する上で必要な、所有者不在コンテンツのリストを出力できること。また、そのリストにおいて旧所有者での検索が出来ると、なお良い。

4. ログ管理機能

システム障害時の対応を速やかに行うために必要なログ、及び、システム運用状況の把握のために必要なログを管理すること。ログの保存期間は35日以上とする。

ログの閲覧は特別なツールを必要とすることなく簡便に行うことが出来、必要な部分を速やかに抽出できるようなものが望ましい。

5. 入力画面管理機能

ユーザーが情報を入力する画面とデータ構造、チェック条件、文書管理との関連付け、承認フローとの関連付け、他システムとのインタフェース条件の設定が行えること。

6. その他管理機能

その他、システムやコンテンツを管理するうえで必要な機能があれば実装すること。

個別管理機能

各ユーザー毎に指定可能な個別グループ管理機能と、ユーザーインタフェース設定機能を有すること。ユーザーインタフェースはテンプレート的なものから選択される形が望ましい。

システム監視機能

システムを構成するサーバー間で死活状況を確認し、ダウンを検出したときには指定のアドレスに対して通知メールを送信する機能を有すること。

また、システムを構成する全サーバーのディスク容量・メモリ消費量・CPU 負荷・ネットワークトラフィックなどの状況を確認できる画面を用意すること。 MRTG の様なグラフ化され長期間に渡る状況の確認が出来る画面が望ましい。 監視項目の中で最終的にサーバーの死活に関する部分があれば、そのレベルに応じて通知メールを送信する機能を有するとなお良い。

これとは別に、システムの稼動状況を確認できる画面を用意すること。 この画面においては、システム内にて承認フローに載っているもの全ての承認状況ステータス確認や、他システムとインタフェースする項目に関しての処理状況ステータス確認が行えること。

セキュリティに関して

本システムは弊社の情報セキュリティ規定に基いて構築されることが必要である。

システムの導入時にはセキュリティツールを用いたチェックを行う場合がある。 チェックにて脆弱性が発見された場合には対応の必要が生じる事もある。

本仕様書に関して

本仕様書を受けての御提案ならびに御見積の提出期限は XXXX 年 XX 月 XX 日 (XX) と致します。 御見積に関しては以下の各条件についての保守費用（期間は X 年）と保守範囲の提示も御願いたします。

- ・ 平日 9 時-18 時 当日対応
- ・ 365 日 9 時-18 時 当日対応
- ・ 365 日 24 時間 当日対応

なお、本仕様書記載内容に関してのお問い合わせは、弊社 □□□□部まで御願いたします。